

同志社
歴史散歩
高知

秋野勉



西原先生の頌徳碑

「南国土佐」は、今日では観光地として広く知られているが、もともと明治維新前後に多くの人材を世に送り出した土地として有名である。この土佐はまた、特に同志社の危機に際して偉大な人物を送り、大きな貢献をなした土地でもある。ここでは同志社の歴史に関係のある人物を二三紹介することとしたい。特に最近、地元高知においても、同志社と関係深い人物についての認識が深まり、これらの人々の頌徳碑や銅像等が建立されたので、それらをめぐり「散歩」したいと思う。

立志社跡

まず歌で名高い「はりまや橋」の西にある中央公園を訪れると、その入口にあずき色の自然石の碑があり、「立志社跡」と刻まれ、その下に次のごとく記されている。

「青い空 青い海 青い山 ここに若さと自由がある。明治七年高知に誕生した立志社は、この大自然を象徴して自由民権の理想を掲げ、日本近代化のために先駆した。『自由は土佐の山間より出づ』といわれた往年を回想して、私たちは碑前に若さと自由をたたえよう。昭和三十七年七月」

この立志社は板垣退助、片岡健吉らによって設立され、自由民権運動の原動力となり、日本の歴史にも大きな影響を及ぼしたのであるが、その社長となった人は後に同志社の第五代社長となった片岡健吉先生であり、この立志社の重要な機関であった立志学会、法律研究所に学んだ人に若き日の西原清東先生（第四代同志社社長）があった。

西原清東先生のこと

高知市から西へ自動車で三十分、土佐市（旧高岡町、出間村等合併による）市役所を尋ねると、市役所前の広場に、数個の岩石を組み合わせた三ヶ程の高さの土台の上に、更に高さ三余、幅二ヶの大自然石の堂々たる頌徳碑が建っている。当地出身、第四代同志社社長西原清東先生の頌徳碑である。碑文を原文のまま次に記すと、

「西原清東（さいばらせいとう）先生は文久元年（一八六一）九月八日高岡郡出間村に生まれた。青い山なみ緑の平野は先生を健やかな少年に育てた。十四歳の時立志社英学校に入学、板垣退助、片岡健吉らに会い自由民権運動に参画、たくましいりっぱ

な青年となった明三十一年衆議院議員に選舉されめざましく活躍。時の政府がキリスト教徒の徴兵猶予特典禁止令を発するや衆議院議長の懇請によつて同志社社長に就任、政府と対決ついにこの法令を撤回させた。後テキサスに雄飛開拓者として五十年

ふるさとの青年らを招いて指導し南米その他諸国を巡り国際親善に尽くした。(後略)

西原清東先生が第四代同志社社長に就任された次第の要点はこうである。明治三十年頃に至つて、ようやく国内に国粹主義的風潮が高まり、文部省はキリスト教主義学校の生徒には徴兵猶予の特典を与えないとの方針を打ち出した。これは同志社にとつても死活問題であつた。校祖建学のキリスト教精神を捨ててまでも学校の存続を計るか否かの大問題となり、遂に当時の第三代横井時雄社長以下全社員(理事)総辞職という事態に立ち至つたのである。この危機に直面して同志社を背負つて立ち得る社長を求めることは至難であつた。その人物は、同志社のキリスト教精神を守り抜く熱烈な信仰者であり、同時に怒濤のごとく押し寄せる政府の力をハネ返すだけの政治力の持ち主でなければならぬ。この両

者を兼備した人物として、同志社を熱愛する人々の目に止まつたのが、西原清東先生その人であつた。先生は同志社の出身ではなかつたが、懇請されて、社長となり同志社の危機を救いに導いたのである。

片岡健吉先生の銅像

高知城の麓、地方都市には珍らしい七階建の堂々たる県庁舎、それに隣接する県会議事堂の前には、昭和三十八年三月に建てられた片岡健吉先生の等身大の銅像がある。「明治維新の創業に参加して功あり、立志社を創立し立憲政治の確立に挺身、高知県会初代議長、更に衆議院議長となり上下の信望を集めた」と賞讃されたこの片岡健吉先生が、デビス博士ら全理事の懇請により、衆議院議長の大要職にありつゝ第五代同志社社長をつとめ、その晩年を同志社のために捧げ、信仰と人格による立派な感化を同志社に残したのである。

土佐教会

高知市の中央を流れる鏡川の畔に「後藤象二郎先生誕生の地」という碑が建っているが、その邸跡に土佐教会がある。組合教会の

伝道により、明治二十年に創立された教会である。(会堂所在地は数回變つた)この教会には、代々同志社出身の牧師が迎えられ、同志社校友会高知支部長をもつとめて来た。初代杉浦義一牧師、伊吹岩五郎、東正義牧師と続き、第四代牧師には牧野虎次先生を迎えた。

先生二十四才の春である。先生在任四年、土佐教会の基礎が堅められたとともにここで先生はベター・ハーフを得られた。當時を回顧して先生は「私が始めて十七才の少女を土佐教会で見出してより算えて実に五十年を経たのだ」「針の穴から」と言つておられる。この牧野先生が、第二次大戦の嵐の中の同志社を守られたことはあまりにも有名である。

次いで第五代牧師には砂川竹藏牧師を迎え約五十年に及ぶ教会伝道により土佐教会は磐石の上に堅立された。先生の信仰による人徳は高く広く、今なお多くの人々に慕われている。その後、大山寛牧師(現京都教会)、児玉浩次郎牧師(現神戸教会)によつて引き継がれ、教会は戦後飛躍的な発展を遂げた。それとともに校友、同窓の交わりもこの教会牧師を中心に深められ今日に至つてゐる。

(校友・土佐教会牧師)